千里の鳥・万博の鳥

A4版第56回

『キビタキ』

種名：キビタキ／撮影日：2016年5月7日
撮影場所：万博公園／撮影者：有賀憲介氏

鳥の世界は越冬地から繁殖地への渡りの季節。昨秋日本に到着して以来、冬のバードウォッチングを楽しませてくれたツグミ・シロハラ・ジョウビタキ・アトリなどの小鳥や、ヒドリガモ・キンクロハジロなどのカモの仲間は、連休までにすべて繁殖地の北国に帰っていなくなった。その冬鳥を追いかけるように、南国の東南アジアで越冬していたキビタキ・オオルリ・コサメビタキなどの夏鳥が、繁殖・子育てを日本でするために、平野部～山地の樹林に渡ってきている。

キビタキは体長13・5㎝と、先月紹介したコサメビタキとほぼ同じ大きさの小鳥、静かなコサメビタキと違い、キビタキは朗々たる歌声で人々を魅了する。しかもキビタキ雄は上面が黒色、眉と腰は黄色、雨覆羽に白斑、下面は黄色で喉のオレンジと配色も美しく、声良し姿良しの人気者となっている。

これら夏鳥が繁殖地へ向かう途中、万博公園など、都市公園の樹林の一夜仮寝の宿となっている。

毎年この季節、を通過するキビタキ・オオルリ・コサメビタキ・センダイムシクイなど10種ほどの夏鳥の渡りについて、万博公園春の渡り鳥調査と称して観察数を確認しているが、最近最も数が多いのはキビタキである。

通常、キビタキやオオルリは平地から山地の落葉広葉樹林内に生息すると言われているが、仮寝の宿の万博公園では、キビタキの歌声が落葉樹林内よりも常緑樹林内から良く聞こえるので、オオルリより、幾分暗い林を好んでいるように思われる。

このキビタキ、大阪近郊での繁殖地状況は、十数年前に比べると増えているようで、山地の樹林だけでなく、平野部の樹林でも繁殖・子育てが行われていると思われる傾向がある。万博公園で6月に入ってからさえずりを聞くことがあるので、そのうちに万博公園でキビタキの繁殖が確認できるものと楽しみにしている。

探鳥会案内

日本野鳥の会大阪支部主催・万博公園定例探鳥会

シジュウカラなど万博公園で子育て中のため忙しい留鳥たち、そしてキビタキ・センダイムシクイなど遅れて渡る春の渡り鳥との出会いを楽しみに園内を一巡する。▽日時…5月13日（土）9時30分～15時▽集合…自然文化園中央口▽解散…日本庭園の予定▽担当…足立道成氏他▽持ち物…筆記具・名札、弁当、あれば双眼鏡。▽服装…ハイキングと同じ。▽参加費…大阪支部会員100円、非会員200円。他に万博公園入園料250円が必要。

千里タイムス
2017年5月11日
第2071号